

グループ最高層の53階建てオフィスビル

タイ大手のサハグループ オフィスビル。地域と調和が首都バンコクで開発したランドマークとして、高さ255mの超高層 チャオプラヤー川沿いのラ



プミホン橋(手前)のシルエットをモチーフとしたキングブリッジタワー

マ3世地区にそびえ立つ。隣接するプミポン橋の主塔シルエットをモチーフにしたデザインが特徴だ。建物はRC造地下1階地上53階建て延べ9万3577平方m(地下4507平方m、地上8万9070平方m)の規模。地上部床はポステンション、スカイラウンジと最上階クラウンは

キングブリッジタワー プロジェクト(タイ)

S造となっている。

設計・施工は、サハグループのサハキャピタルタワーが発注した。設計は意匠をタイのアーキテクトツ49、構造をアーキテクトチュラルエンジニアリング49、設備をM&Eエンジニアリング49、外構をTKスタジオがそれぞれ担当。施工は大林組の現地法人であるタイ大林が担った。工期は2022年1月～24年12月。

タイ大林が施工したRC造ビルとしてだけでなく、大林グループ全体でも最高層の建築プロジェクトだった。設計コンセプトに「シナジー(相乗効果)の精神」を掲げ、持続可能で高付加価値が提供できる建物を目指した。建物の国際環境認証である「LEED」や「Fitwel」を取得し、

地上151m、39階から張り出したスカイラウンジ



イラウンジの施工には「リフトアップ工法」を採用。地上で組み立てたスカイラウンジを油圧ジャッキで引き上げた。高所作業や仮設足場の設置・解体を極力減らし、品質向上に加え、工期短縮や作業員の安全確保に寄与した。

の三つ星認証を得ている。最大の特徴は、地上151m、39階の高さに設けた大規模な跳ね出し構造のスカイラウンジだ。建物から約12m張り出し、幅が45m、最大厚さは約4.5mに及ぶ。施工プロセスの革新が求められる中、環境配慮や品質向上に向けたさまざまな取り組みを実施した。スカイラウンジの施工には「リフトアップ工法」を採用。地上で組み立てたスカイラウンジを油圧ジャッキで引き上げた。高所作業や仮設足場の設置・解体を極力減らし、品質向上に加え、工期短縮や作業員の安全確保に寄与した。

